



ゆづりは

堺市立図書館だより

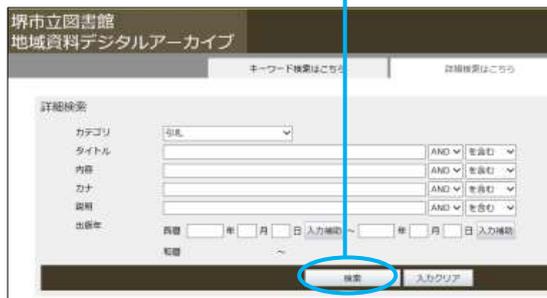
第11巻 第4号 (通巻42号)
 発行日 平成29年3月10日
 編集・発行 堺市立中央図書館
 〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1
 電話 072(244)3811
 Fax 072(244)3321

地域資料デジタルアーカイブを リニューアルしました

図書館では、堺の歴史文化に関わる貴重資料をデジタル化して保存するとともに、広く活用していただくため、図書館ホームページで公開しています。平成29年1月、図書館情報システムの更新にともない、「地域資料デジタルアーカイブ」も検索しやすく、見やすい画面にリニューアルしました。トップページ左上のキーワード検索で簡単に画像を検索できます。また、画像拡大はもちろん、カラー印刷やデータのダウンロード(「堺市立図書館」の透かしが入っています)もできるようになりました。調べものや楽しみのために、ぜひ一度ご覧になってください。

思いついた用語を入力！
すべての画像を検索します

用語を入力せず、「検索」ボタンをクリック
すると、カテゴリごとの一覧が表示されます



カテゴリごとにくわしく
検索できます



「全体表示」画面から、画像印刷が
できます

「拡大」画面で拡大縮小とデータ
ダウンロードができます

●「絵はがき」290点

明治末から昭和初期にかけて、絵はがきが流行し、様々な絵はがきが発行されました。→「水族館」で検索！（かつて大浜に水族館がありました）

●「引札」81点

引札は現代のチラシや広告にあたります。明治から大正にかけて、色鮮やかな正月用引札は商店から顧客に直接配られました→「鳥井」で検索！（アサヒビールの創業者の一人、鳥井駒吉は堺の出身です）

●「古写真」70点

明治36（1903）年につくられた堺の名所案内『堺大観』に収められた史跡や風景の写真です。→「堺市役所」で検索！

●「住吉・堺名所并二豪商案内記」233頁

明治16（1883）年、川崎源太郎により、堺で住吉・堺の商家の様子を描いた本が出版されました。引札と重なる商家もありますので対比してみてください→「駿河屋」で検索！（与謝野晶子の生家です）

●「絵図」180点

堺市史編纂の時に収集した、江戸時代の絵図（大正時代に筆写）が多くを占めます。近世の堺の姿をよく伝えるとされる「文久改正堺大絵図」は必見です。→「文久」で検索！

目次

地域資料デジタルアーカイブ... 1
 をリニューアルしました

予約連絡方法が変わります ... 2

この本で解決！ ... 3
 ～花や植物を調べる～

堺かるた いろはの「め」 ... 3

司書のイチ押し！ ... 4
 『海も暮れきる』

堺市立図書館電話番号一覧 ... 4

ゆづりは

とは・・・

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人、河井醉茗氏の歌碑があります。

年ごとに
 ゆづりゆづりて 譲り葉の
 ゆづりしあとに また新しく

この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だよりに「ゆづりは」と名づけました。





予約連絡方法が変わります



平成 29 年 4 月 1 日（土）から、予約の連絡方法が変わります。インターネットで図書・雑誌等を予約されますと、電話連絡が選択できなくなり、「メール」か「連絡不要」のどちらかを選んでいただくこととなります。

現状では、何らかの理由でなかなかお電話が繋がらず、結果として予約された図書・雑誌等の取り置きが長くなることがあります。メールによる図書館からの連絡をご確認いただいたり、ご自身で図書館ホームページなどから予約状況一覧を確認していただくことで、スムーズに予約された図書・雑誌等をお渡しすることができ、短期間に多くの方にお借りいただけることとなります。

また、電話による予約連絡の時間や経費を削減することで、インターネットをご利用にならない方々を含むより多くの市民のみなさまへのサービス向上につなげてまいります。

*「メール」を選択された方

予約連絡メールで、ご用意できた図書・雑誌等の書名、受取館、取り置き期限をお知らせします。

- ・図書館ホームページや館内検索用端末からご使用のメールアドレスをご登録ください。

- ・迷惑メールフィルターやなりすまし規制機能にブロックされないよう、アドレス sakai_library@lib-sakai.jp が届くよう設定してください。

◀館内閲覧用端末メールアドレス設定画面▶

◀図書館ホームページメールアドレス設定画面▶

- ・一番上の枠によくお使いになるメールアドレスをご登録ください。

*「連絡不要」を選択された方

予約された図書・雑誌等がご用意できても図書館からはご連絡いたしません。ご自身で図書館ホームページのマイライブラリーや館内検索用端末のマイページの予約状況照会から予約状況をご確認ください。

受取館 受取場所	予約日	順位	予約状態	取置期限
連絡方法	割当日			
中央般	2017/02/23	17	ご用意できました	03/03
連絡不要	2017/02/23			
中央般	2017/02/07		予約中	
メール	-			
西	2017/02/23		回送中	
連絡不要	-			

◀予約状態の表記について▶

「ご用意できました」: お渡しする用意ができています。取置期限を確認し、期限内に表示されている受取の図書館（受取館・受取場所）へお越しください。

「予約中」: 図書・雑誌等を予約しています。この状態時には、受取館や連絡方法の変更、または予約の取消しができます。

「回送中」: 堺市内の他の図書館から受取館へ、図書・雑誌等を配送している途中です。もうしばらくお待ちください。

この本で解決！ ～花や植物を調べる～

もうすぐ桜の季節。花を観賞するのが楽しみです。今回の「この本で解決！」は、花や植物にまつわる質問と、回答に使用した資料を集めてみました。

※バラの油絵絵画が見たい

絵画や俳句、手芸などを趣味にされている方から「花の咲いている写真を見たい」、「特定の角度からのものが欲しい」、といったお問い合わせも寄せられます。写真、絵が載っているだけなら比較的容易にご提供できますが、特定の一部分、特定の角度、となると難しい場合もあります。

絵画の参考に、バラを描いた世界の名作が掲載された『恋する薔薇』(おおぞら 出版)があります。

※食用の実がなる梅の花の色は白？紅？

『ウメNHK 趣味の園芸よくわかる栽培 12か月』P121 に「実ウメには、色の濃い品種はない」との記載があり、紅梅の実が食べられることは少ないようです。

※アスセナという花はどんな花？

聞いたことのない名前の草花などは、園芸事典、植物図鑑等で種類を確認してから育て方を調べます。「アスセナ」は、図鑑には掲載されていませんでしたが、インターネットでスペイン語とわかり、スペイン語辞典を調べ、パラグアイの国花であり、「マドンナリリー」または「フランスユリ」という種類であることがわかりました。この花については、『四季の花事典』(八坂書房) P282 に解説が掲載されています。

※ボケの花が咲いたので管理方法が知りたい

庭木や草花の場合は、書棚で実際に本を見て選んでいただくことも多く、今回は、分類番号627(花卉園芸)の棚を案内しご覧いただきました。

『花木・庭木の手入れ 12 カ月』(主婦の友社)
『ガーデニング花木入門』(日本放送出版協会)

お庭やベランダでガーデニングを楽しまれていて、ふと疑問に思ったことを図書館に調べて来て下さったのでしょうか。職員も一生懸命お手伝いしますよ！

堺かるた - いろはの「め」 「名月のまつりだ 百舌鳥の 八幡さん」

三百年以上前に始まったと伝わる百舌鳥八幡宮の秋祭りは、中秋の名月にあたる旧暦八月十五日に行われていたため「月見祭(つきみまつり)」と呼ばれています。

祭りでは「ベーラ ベーラ ベラ ショッショ」の掛け声のもと、子どもたちが太鼓をたたき「ふとん太鼓」による勇壮華麗な宮入・宮出が行われ、十万人規模の人出で賑わいます。

地元九町の住民によるふとん太鼓の担ぎ手は、年齢層が十八歳位から五十歳代まで幅広く、こども太鼓も加えると親子三世代で参加する家庭もあり、地域の文化・伝統が受け継がれる行事となっています。



参考文献

- 『フォーラム堺学 第14集』堺都市政策研究所
- 『むかしの堺』別所 やそじ/共著 はとぶえ会
- 『大阪の祭』旅行ペンクラブ/編 東方出版
- 『日本の祭り4 近畿編』『日本の祭り』編集室/編 理論社
- 『大阪府神社名鑑』大阪府神道青年会/編集 大阪府神道青年会
- 『難波大阪 郷土と史蹟』牧村 史陽/編 講談社
- 『堺の歴史』関 英夫/著 山川出版社
- 『大阪伝承地誌集成』三善 貞司/著 清文堂出版

司書のイチ押し!



「海も暮れきる」 吉村昭／著 講談社



中高年の世代では俳句をたしなむ人も多く、最近では芸能人が作った俳句を添削するテレビ番組に人気があり、俳句に馴染みのないと思われていた若い世代にも俳句が身近なものになってきています。

俳句は、季語を含めた五七五の十七音で表現するものが「定型」とされていますが、季語をふくめず五七五の十七音にとられない「自由律俳句」もあります。

尾崎放哉おざきほうさいは、種田山頭火たねださんとうかとならび自由律俳句を代表する俳人で、代表作として「咳をしても一人」、「入れものが無い両手で受ける」などの句があります。尾崎放哉の名前を知らなくても、これらの句を聞いたことがあるかもしれません。

各地を行脚した山頭火の句は「動の句」と呼ばれていますが、対照的に内面からたたみかけるような放哉の句は「静の句」と呼ばれています。

『海も暮れきる』は放哉が最晩年を過ごした小豆島での八か月の様子を記した小説です。

著者・吉村昭の独特で緻密な文章が放哉の孤独な心の内を描いています。

尾崎放哉は、明治18(1885)年に鳥取県で生まれました。東京帝国大学を卒業後、保険会社に入社し順風満帆な人生を過ごすと思われた放哉でしたが、酒のために二度も職を辞し、ついには妻とも別れて暮らします。しかも様々な理由で放哉はいずれの場所での生活も長続きがせず、住まいを転々としました。最後には俳句雑誌の同人のつてを頼って小豆島に移り住み、句作に没頭

します。

しかし、長年荒んだ生活を送っていた放哉の体はすでに病に侵されており、大正15(1926)年4月に41歳の短い生涯を終えました。瀬戸内海を眺めて作った句、「障子あけて置く海も暮れきる」からこの小説のタイトルは生まれました。

現在、小豆島には放哉が住んだ庵、南郷庵が小豆島尾崎放哉記念館として復元され、多くの資料が展示されています。また終焉の地として放哉の師匠である萩原井泉水おぎわらせいせんすいが筆をふるった「入れものが無い両手で受ける」の句碑が建っています。

毎年、放哉の命日4月7日を放哉忌として全国の多くの俳句の愛好家が放哉を偲び、多くの俳句が作られ、優秀な作品には「放哉」南郷庵友の会から尾崎放哉賞が贈られていました。(残念なことに尾崎放哉賞は平成26(2014)年を最後に贈呈が中止されました。)

図書館では、この『海も暮れきる』はもちろんのこと、尾崎放哉の句集ならびに、句の解説書についての資料も所蔵しています。(M・M)



堺市立図書館電話番号一覧

音声応答サービス	280-0415	東図書館	235-1345	北図書館	258-6850
中央図書館	244-3811	初芝分館	286-0071	美原図書館	369-1166
くすのき号	244-3811	西図書館	271-2032	人権ふれあいセンター	船松人権歴史館
堺市駅前分館	222-0140	南図書館	294-0123	人権資料・図書室	245-2534
中図書館	270-8140	梅分館	296-0025	青少年センター図書室	228-6331
東百舌鳥分館	234-9600	美木多分館	296-2111		
ホームページ URL	http://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/library/				